

1 位置と地勢

安佐北区は、広島市の北部に位置し、太田川、三篠川流域に開けた旧安佐郡の安佐町、可部町、高陽町と旧高田郡白木町を含む広い区域で、面積は 353.33 k m² と市域の約 39.0% を占めている。

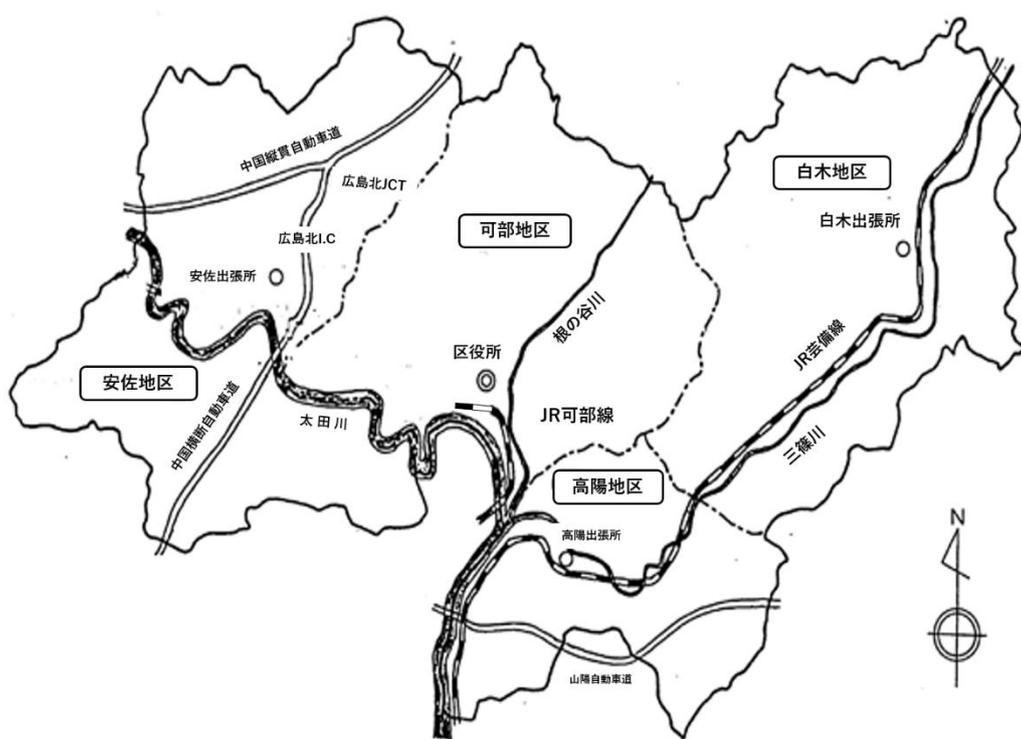
区の北端は安佐町鈴張北部で山県郡北広島町に接し、南端は小河原町（高陽地区）で安芸区に接し、南北およそ 19.8km である。また、東端は白木町井原東部で安芸高田市向原町に接し、西端は安佐町久地で佐伯区に接し、東西およそ 32.3km である。

区内には、雄大な山容と眺望を誇る白木山（標高 889.3m）をはじめとして堂床山（標高 859.6 m）、備前坊山（標高 789.4m）、鬼ヶ城山（標高 737.3m）、可部冠山（標高 735.7m）など、標高 700 m を越える高山が数多く連なっている。水系としては、中国山地の冠山（標高 1,339 m）を水源とする太田川や根谷川、三篠川があり、この根谷川、三篠川はいずれも可部地区の南端で太田川に合流している。

地域構造は、可部・高陽地区は市街化が進行し、商業地、住宅団地が混在した都市的性格を有し、安佐・白木地区は森林・耕地面積が多く、農村的性格が強い地域である。

区内の主要な道路としては、島根県に連絡する国道 54 号、183 号、191 号、261 号及び県道広島三次線がある。また、中国縦貫自動車道の広島北インターチェンジが有り、国道 191 号線と結節している。

鉄道は J R 可部線と芸備線があるが、地形的な制約から区内の各地区は、山地や河川に隔てられた形となっている。



2 国勢調査に基づく人口

(1) 人口の推移

安佐北区の人口は145,018人で、安佐南区、西区について3番目に人口の多い区であるが、その人口は、平成17年から平成27年にかけて、10年間で約7,700人減少しており、国勢調査毎に減少しているのは、安佐北区と東区だけである。

地区別にみると、安佐北区全体で5.0%減少しており、白木地区(△14.5%)、安佐地区(△14.5%)の減少率が高い。

■ 区別人口推移表 (各年国勢調査)

(単位：人)

| 区分 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 |
|------|-----------|------------------|------------------|
| 全市 | 1,154,391 | 1,173,843(1.7%) | 1,194,034(1.7%) |
| 中区 | 127,763 | 130,482(2.1%) | 136,640(4.7%) |
| 東区 | 121,222 | 120,751(▲0.4%) | 120,155(▲0.5%) |
| 南区 | 137,874 | 138,190(0.2%) | 142,728(3.3%) |
| 西区 | 184,795 | 186,985(1.2%) | 190,929(2.1%) |
| 安佐南区 | 219,343 | 233,733(6.6%) | 242,512(3.8%) |
| 安佐北区 | 152,716 | 149,633(▲2.0%) | 145,018(▲3.1%) |
| 安芸区 | 76,656 | 78,789(2.8%) | 79,353(0.7%) |
| 佐伯区 | 134,022 | 135,280(0.9%) | 136,699(1.0%) |

■ 安佐北区の人口推移表 (各年国勢調査)

(単位：人)

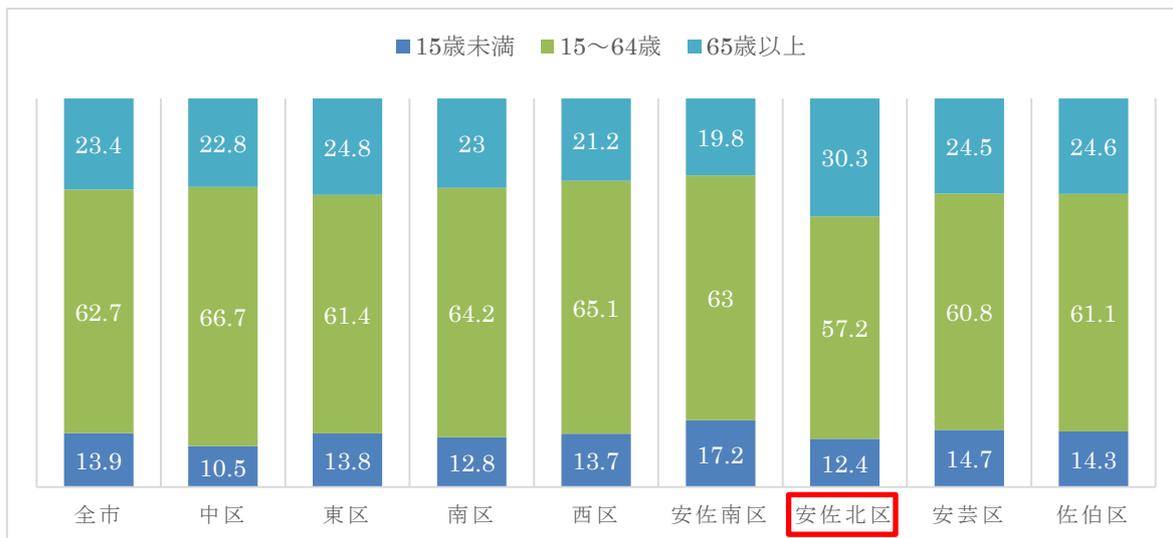
| 区分 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 |
|------|---------|----------------|----------------|
| 安佐北区 | 152,716 | 149,633(▲2.0%) | 145,018(▲3.1%) |
| 可部 | 56,631 | 56,844(0.3%) | 56,203(▲1.1%) |
| 白木 | 9,581 | 8,947(▲6.6%) | 8,189(▲8.5%) |
| 高陽 | 64,513 | 63,476(▲1.6%) | 61,830(▲2.6%) |
| 安佐 | 21,991 | 20,366(▲7.4%) | 18,796(▲7.7%) |

(2) 年代別人口の推移

安佐北区の年齢別人口は、全市平均に比べ、65才以上の高齢者層が7ポイントも高く、全区の中でも突出している。また、14歳以下の若年層が1.5ポイント、15歳以上64才以下の生産年齢層が5.5ポイント低くなっており、こうした傾向から2014年、「日本創生会議」人口減少問題検討分科会が消滅可能都市（2010年から2040年までの間に20歳～39歳の女性人口が5割以下に減少することが予想される自治体）となることが、広島市8行政区の中で唯一予測されている。

地区別にみると、安佐北区平均に比べ、人口の多い高陽地区、可部地区は若年層、生産年齢層の減少は平均的であり、高齢者層の増加率が高い。白木地区は若年層、生産年齢層の減少率が高いが、高齢者の増加率は低い。安佐地区は若年層、生産年齢層の減少率、高齢者人口の増加率ともに高い。

■ 区別年齢層人口構成比（平成27年国勢調査）（単位：％）



※少数点以下第2位で四捨五入しているため、必ずしも合計が100%とはなりません。

■ 安佐北区の年齢層別人口推移表（国勢調査）（単位：人）

| 区分 | 年齢 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 |
|------|--------|---------|----------------|----------------|
| 安佐北区 | 0～14歳 | 22,053 | 20,295(▲7.9%) | 18,013(▲11.2%) |
| | 15～64歳 | 101,884 | 93,566(▲8.2%) | 82,701(▲11.6%) |
| | 65歳～ | 28,584 | 35,562(▲24.4%) | 43,997(▲23.7%) |

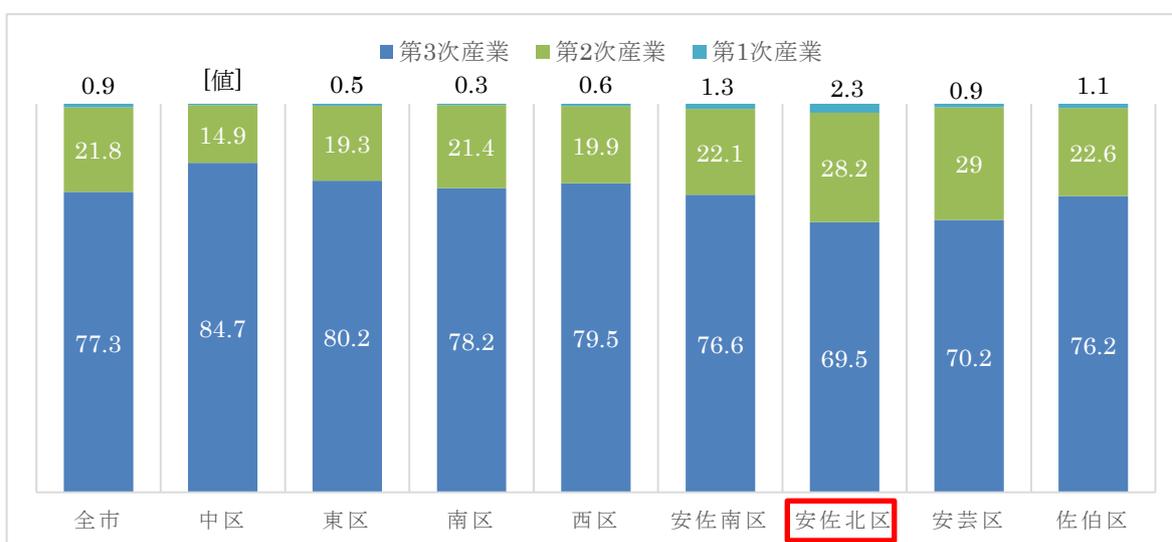
3 産業

(1) 産業構成

安佐北区で働く人の割合は、第1次産業（農林水産業）で働く人の割合が全区で最も高く、第3次産業（商業・サービス業）で働く人の割合は全区で最も低い。また、第2次産業（工業・建設業）で働く人の割合は安芸区に次いで高い。

地区別にみると、白木地区、高陽地区、可部地区、安佐地区とも市平均を上回り、なかでも白木地区、安佐地区は第1次産業従事割合が高い。

■ 区別の産業別構成（平成27年国勢調査）（単位：％）

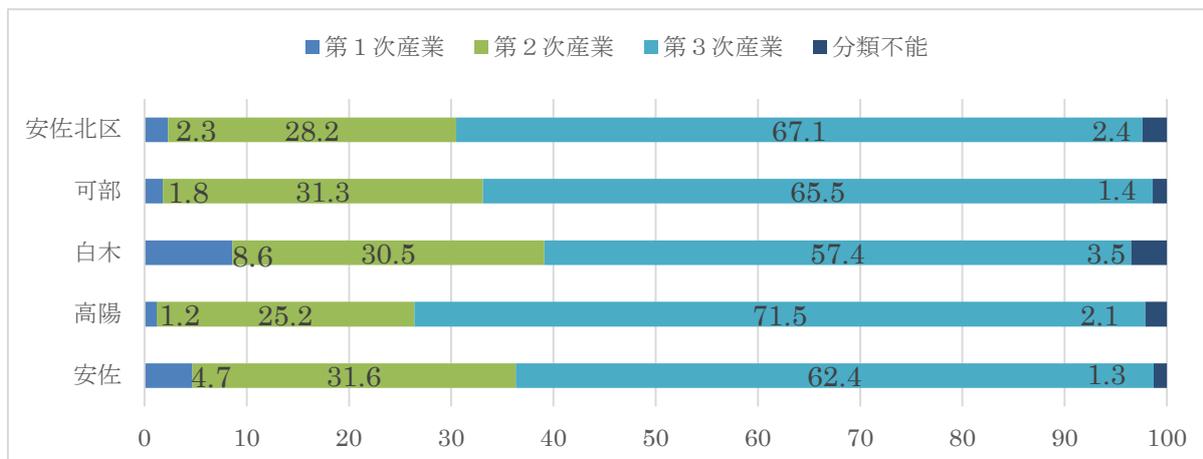


※総数には調査不能を含むため、必ずしも各産業の合計が100%にはなりません。

■ 安佐北区の産業別15歳以上就業者数（平成27年国勢調査）

| 地区名 | 第1次産業 | 第2次産業 | 第3次産業 |
|------|-------|--------|--------|
| | (人) | (人) | (人) |
| 安佐北区 | 1,556 | 18,970 | 45,159 |
| 可部 | 470 | 8,211 | 17,183 |
| 白木 | 327 | 1,160 | 2,183 |
| 高陽 | 346 | 7,135 | 20,271 |
| 安佐 | 413 | 2,792 | 5,522 |

■ 安佐北区の産業別 15 歳以上就業者の割合（平成 27 年国勢調査）（単位：％）



※総数には調査不能を含むため、必ずしも各産業の合計が 100%とはなりません。

(2) 商業

安佐北区の商業における事務所数は安芸区、東区、佐伯区に次いで全区で 4 番目に少ない。年間販売額でみると、佐伯区に次いで全区で 2 番目に低い。

■ 区別の商業事務所数と年間販売額（2014 年商業統計調査）

| 地区名 | 事業所数 | 年間販売額 |
|------|--------|-----------|
| | (件) | (億円) |
| 広島市 | 10,359 | 5,574,118 |
| 中区 | 2,772 | 2,225,141 |
| 東区 | 660 | 444,518 |
| 南区 | 1,485 | 1,045,682 |
| 西区 | 2,055 | 1,284,748 |
| 安佐南区 | 1,327 | 289,182 |
| 安佐北区 | 834 | 90,121 |
| 安芸区 | 393 | 108,392 |
| 佐伯区 | 833 | 86,334 |

(3) 工業

安佐北区の工業における事業所数は全市で最も多い。従業者数も、全区で南区に次いで2番目に多い。

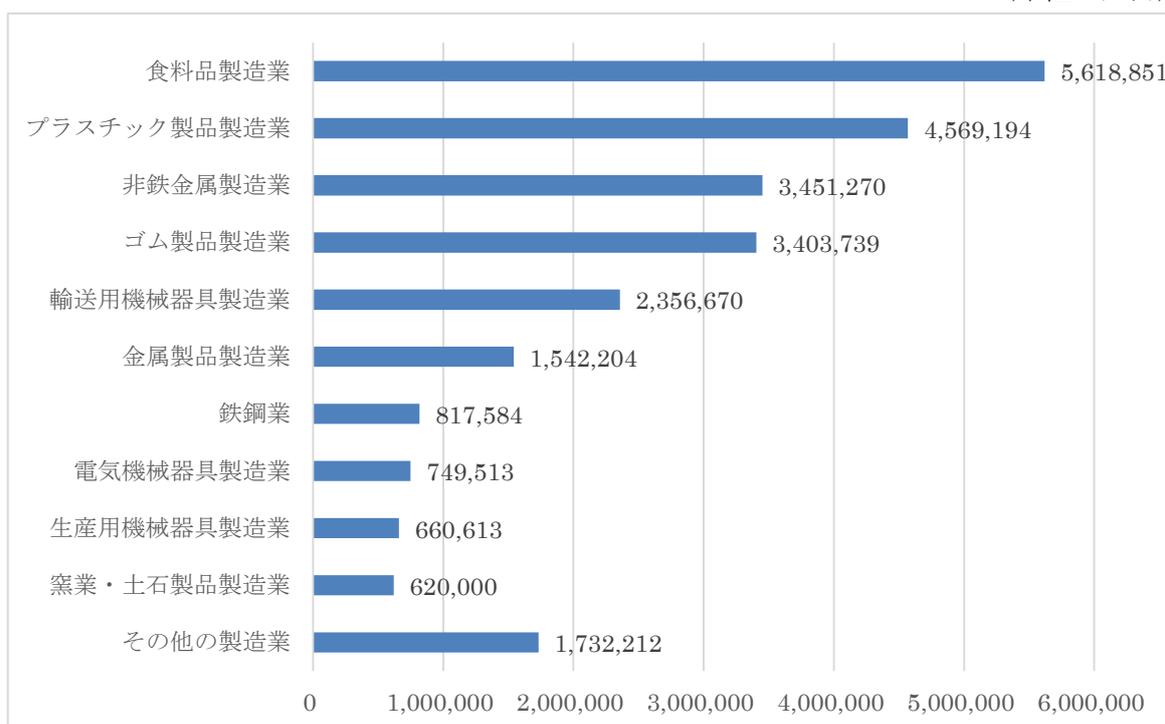
産業中分類別製造品出荷額では、食料品製造業が最も多く、次いでプラスチック製品製造業、非鉄金属製造業、ゴム製品製造業が多い。

■ 区別事業所数と従業者数（平成28年経済センサス）4人以上の事業所

| 地区名 | 事業所数 | 従業者数 |
|------|-------|--------|
| | (件) | (人) |
| 広島市 | 1,395 | 54,792 |
| 中区 | 160 | 4,309 |
| 東区 | 45 | 1,223 |
| 南区 | 203 | 14,629 |
| 西区 | 257 | 8,935 |
| 安佐南区 | 175 | 3,983 |
| 安佐北区 | 302 | 10,265 |
| 安芸区 | 134 | 7,232 |
| 佐伯区 | 119 | 4,216 |

■ 安佐北区の産業中分類別製造品出荷額（平成28年経済センサス）4人以上の事業所

(単位：万円)



(4) 農業

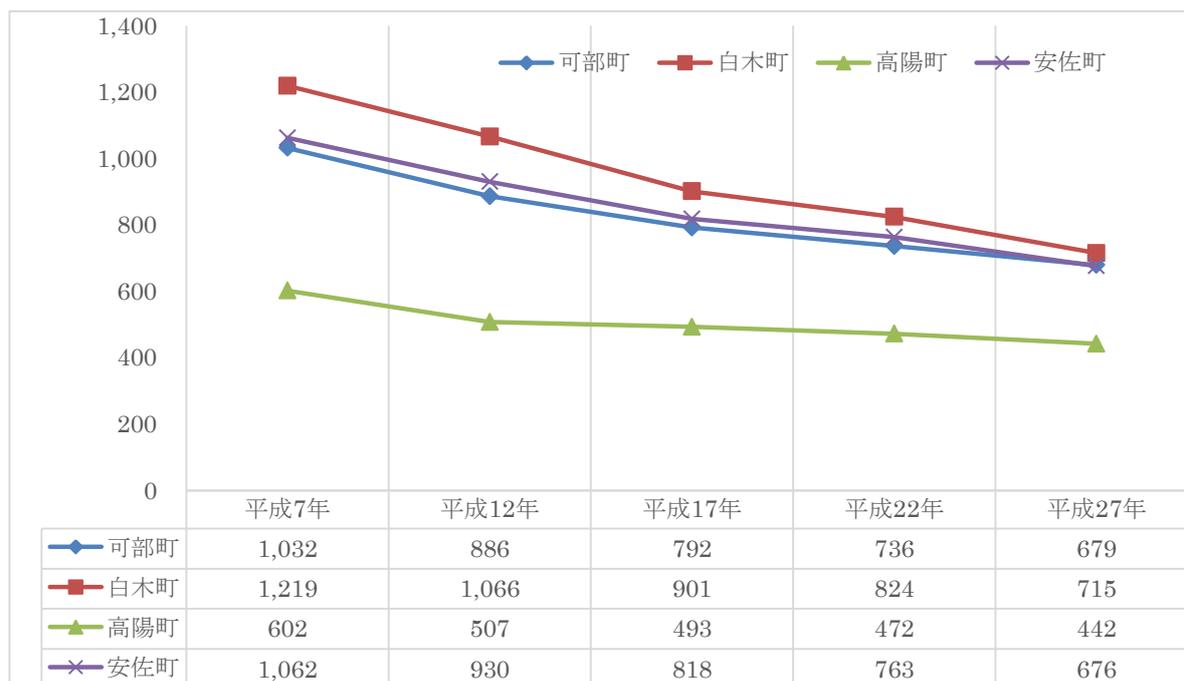
安佐北区の農業における総農家数は全市で最も多い。また、農産物販売額 500 万円以上の農家数では、全区で安佐南区に次いで 2 番目に多い。

平成 27 年の安佐北区における旧町村別農家数では、白木町、可部町、安佐町、高陽町の順に多い。平成 7 年から平成 27 年にかけて、全町で農家数は減っており、最も減少率の高い白木町では、約 41% 減少している。

■ 区別の総農家数（2015 年農林業センサス）（単位：戸）

| 地区名 | 総農家数 | 農産物販売額 500 万円以上の農家数 |
|-------------|--------------|------------------------|
| 広島市 | 6,135 | 95 |
| 中区 | 9 | 0 |
| 東区 | 299 | 3 |
| 南区 | 32 | 0 |
| 西区 | 191 | 4 |
| 安佐南区 | 1,239 | 49 |
| 安佐北区 | 2,512 | 27 |
| 安芸区 | 663 | 2 |
| 佐伯区 | 1,190 | 10 |

■ 旧町村別総農家数の推移（第 39 回広島市統計書平成 29 年版）（単位：戸）



4 地域資源

(1) 文化財

【可部地区】

- 地蔵堂木造地蔵菩薩立像（可部九丁目）市指定重要有形文化財
- 三入八幡神社銅製梵鐘（可部町桐原）市指定重要有形文化財
- 福王寺金銅五鈷杵（可部町綾が谷）県重要文化財
- 鉄燈籠（可部二丁目）市指定重要有形文化財
- 熊谷氏の遺跡（大林町～三入一丁目）県史跡
- 地蔵河原一里塚（可部九丁目）県史跡
- 青古墳群（亀山五丁目）市指定史跡
- 福王寺燈明杉（可部町綾が谷）市指定天然記念物
- カヤ（可部町上原登竜）市指定天然記念物
- 峠八幡宮のオオツクバネカシ（大林町）市指定天然記念物
- 可部町中野の千代の松（可部一丁目）市指定天然記念物
- 友広神社のイチョウ（可部南一丁目）市指定天然記念物

【白木地区】

- 出崎山神社拝殿（白木町古屋）市指定重要有形文化財
- 順教寺金銅円盤懸仏・銅円盤懸仏（白木町市川）市指定重要有形文化財
- 新宮神社の大イチョウ（白木町井原）市指定天然記念物

【高陽地区】

- 明光寺薬師堂（深川四丁目）市指定重要有形文化財
- 明光寺木造薬師如来坐像（深川四丁目）県重要文化財
- 西八幡神社本殿・拝殿（狩留家町）市指定重要有形文化財
- 善徳寺銅製梵鐘（深川二丁目）市指定重要有形文化財
- 中小田古墳群（口田南町）国史跡
- 恵下山・山手遺跡群（落合三丁目）県史跡
- 西願寺山墳墓群（口田二丁目）県史跡
- 松笠観音の巨樹群（口田南町）市指定天然記念物
- 諸木十二神祇神楽（落合南七丁目）市指定重要無形文化財

【安佐地区】

- 筒瀬八幡神社本殿（安佐町筒瀬）市指定重要有形文化財
- 養専寺木造如来坐像（安佐町飯室）市指定重要有形文化財
- 土井泉神社文書（安佐町飯室）市指定重要有形文化財
- 宮野八幡神社の大エノキ（安佐町宮野）市指定天然記念物
- 筒瀬八幡神社の社叢（安佐町筒瀬）市指定天然記念物
- 養山八幡神社の社叢（安佐町小河内）市指定天然記念物
- 養山八幡の吹囃子行事（安佐町小河内）市指定重要無形文化財

(2) 伝統芸能等

- 神楽（区全域）
- 小河内昭和劇団（安佐町小河内）
- 熊谷踊り（大林）
- シャギリ（狩留家町）
- 文教大学、文教大学附属高校の和太鼓 など

(3) 自然・歴史・産業等

- 神ノ倉山、荒谷山のスカイスポーツ
- 南原峡県立自然公園
- 宇賀峡など太田川中流域の景観
- 木の宗山憩の森
- 白木山ほか各地区の里山登山
- 中郡古道
- 可部旧街道の古民家が点在する歴史的町並みの景観
- 安佐町鈴張地区の棚田の田園風景
- 神ノ倉山のさくら、フジ
- 久地の千年杉
- 久地の氷室跡
- 可部の鋳物産業
- かよこバス
- 太田川の鮎 など

(4) 祭り・行事

- 高松山大文字祭り
- 明神祭（チンチロビッツ）
- 可部のまちめぐり
- 福王寺春の大祭
- 高陽地区秋祭りの吹き火
- 神ノ倉山さくらまつり など

(5) 施設等

- 安佐動物公園
- 花みどり公園
- 可部運動公園
- 見張市民農園
- 大河原廢川敷

- 青少年野外活動センター
- 区民文化センター・スポーツセンター
- コカコーラウエスト・レッドスパークス など

5 第5次基本計画期間（2009年：平成21年～2018年：平成30年度）内の主な取組み

(1) 自然をはぐくむ、うるおいのあるまち

安佐北区の里山の魅力を広めるため、案内看板の設置や登山道の整備に取り組むとともに、平成21年度にあさきた里山マスターズ認定制度を創設し、現在約1,900人の里山登山愛好家を認定している。また、平成25年から、当該指針のメイン事業となる「可部連山トレイルラン in あさきた」の開催などに取り組んでいる。



可部連山トレイルラン in あさきた



あさきた里山マスターズ認定制度



登頂数に応じて認定者に贈呈する「登頂プレート」

(2) 歴史・文化が息づくまち

当該指針のメイン事業としては、全区で最も多くの神楽団がある区として「あさきた神楽発表会」を計画期間以前から開催しているほか、平成23年度まで、歴史探訪の道の整備として地区の案内板や歴史資源の説明板の設置などに取り組んでいる。



あさきた神楽発表会

(3) 都市圏北部の拠点となるまち

地域ににぎわいを創出する「可部のまちめぐり」の開催支援や、高陽地区を活性化させるための中高生向けワークショップ「高陽まちづくり塾」の開催、また、平成29年3月の可部線の電化延伸を契機としたまちづくりとして「終着駅サミット」の開催など、可部地区、高陽地区を対象に取り組んでいる。



高陽まちづくり塾



終着駅サミット

(4) 支え合いの心が育つまち

実践を通して住民主体のまちづくりを担うリーダーを育成する「あさきた元気フェスタ」の開催や次世代を担う子どもの健やかな成長に不可欠な遊び場を提供する冒険遊び場の整備事業、花づくりを通じて団体間、住民間の連携を深める花の町づくり事業などに取り組んでいる。



あさきた元気フェスタ



冒険遊び場の整備（プレーパーク）



安佐北区花のまちづくり推進事業

(5) みどりの恵みが実るまち

白木町檜山地区、安佐町久地北地区、安佐町小河内地区、安佐町鈴張地区などで、遊休農地への花木の植え付けによる里山の景観整備や農業体験教室などのイベント開催による都市住民と地域住民の交流事業、農村のコミュニティの活性化のための研修などに取り組んでいる。



久地北げんき村の梅林



都市住民と地域住民の交流事業

6 安佐北区のまちづくりにおける課題

- 安佐北区は、広島市北部に位置し、市域面積の約4割を占める広大な区域を有している。そして、太田川や根の谷川、三篠川などの河川、白木山や可部冠山、堂床山の山々など自然環境に恵まれた地域である。今後ともこれらの自然環境を保全し、地域資源として活用する必要がある。
- 国の史跡である中小田古墳群や間もなく開基1200年を迎える福王寺など数多くある文化財、安佐北区で盛んな神楽や和太鼓などの伝統芸能、復活した高松山大文字祭りなどの歴史・文化資源、可部旧街道の古民家が点在する歴史的な街並みの景観などを生かしたまちづくりを進めるため、これらを大切に保存・活用し、次世代への継承に取り組む必要がある。
- 都市圏北部の拠点として、圏域の救急医療の拠点となる新安佐市民病院（仮称）を整備し、圏域の安心を確保し、それに併せ幹線道路の整備や公共交通機関の利便性向上など交通機能の充実を図り、隣接市町等から人を呼び込む流れを創出するとともに、交流機会拡充のためのにぎわいづくりなどに取り組む必要がある。また、生活道路や下水道整備などの基盤整備を進める必要がある。
- 安佐北区は、広島市のベッドタウンとして発展してきたが、近年は人口の減少に歯止めがかからず、高齢化の進展や人口流失に伴う地域の担い手不足などにより、コミュニティ活動の停滞が深刻化している。こうした中、区民が安心して健康に暮らせるよう、保健・医療・福祉サービスの充実を図るとともに、住民同士の支え合いによるまちづくりを進める必要がある。
- 農山村地域では、農林業の担い手不足や過疎化の進行により、農地・森林の保全や地域コミュニティ活動の継続が困難になるなど、様々な地域課題が生じている。このため、多様な担い手の育成・支援や農業生産基盤の整備などにより農林業の振興を図るとともに、都市住民との交流促進や定住人口の増加を図る取組など総合的な過疎対策に取り組む必要がある。
- 安佐北区には、急峻な山河、山間部に位置する集落や農耕地、山を切り崩した造成地に広がる住宅地などがあり、自然災害が発生しやすい地形が多く見られる。近年は、異常気象に起因する自然災害が多発しており、特に平成26年8月豪雨や平成30年7月豪雨では大きな被害を受けている。引き続き、関係機関と連携し、災害防止のための堰堤などのハード整備と併せ、防災訓練や研修、土砂災害特別警戒区域等を考慮した地域の防災まちづくりマップの作成などのソフト対策など区民と一体となった災害に強いまちづくりに取り組む必要がある。